

インフォシス、Orion Corporation の ERP および計画プラットフォーム変革、 事業価値実現のパートナーに選ばれる

十分な情報に基づいた意思決定とサプライチェーンの隅々に見える化を低い業務運用コストで実現

ロンドン (英国) – 2021 年 11 月 14 日:次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである[インフォシス](#) (NSE, BSE, NYSE: INFY)は本日、フィンランドに本社を置く Orion Corporation の変革パートナーに選ばれ、同社の ERP と計画プラットフォーム全体の変革、従業員体験の向上、事業価値実現の推進を行うことを明らかにしました。このプロジェクトでインフォシスは、標準化された SAP のベストプラクティスを導入し、AI や ML、ロボティック・プロセス・オートメーション (RPA) を駆使して Orion の業務を隅々まで見える化するとともに、十分な情報に基づいた意思決定や業務運用コストの削減を実現します。

インフォシスが Orion の変革ジャーニーの支援役として選ばれた理由は、インフォシスの協力的で透明性の高いアプローチや、SAP に関する証明済みの能力、ライフサイエンス分野での実績、有形の事業価値を生み出す力が評価されたためです。インフォシスは S/4HANA、BW/4HANA および IBP の実績ある SAP 変革パートナーとして、革新的なハイブリッドアジャイル方式を取り入れ、Infosys CaPSule を用いて、Orion の業務関係者の関与を最大化し、早い段階で支持を取り付けます。また、インフォシスの Value Realization Method (VRM) を用いて Orion の主な価値目標を達成すると同時に、データ匿名化スイートを駆使して、リアルタイム情報の可用性と高いデータの完全性を実現します。

Orion Corporation の Timo Lappalainen 社長兼最高経営責任者 (CEO) は次のように述べています。
「Orion はインフォシスをパートナーに迎え、プロセスや ERP などの基幹プラットフォームの変革により運営体制を構築できること嬉しく思います。パートナーの選定にあたっては、インフォシスのライフサイエンス分野におけるベストプラクティス実装の



優れた実績と事業価値実現への注力、実績証明済みのサービス提供能力を高く評価しました。インフォシスと共に取り組めること、そして、この提携関係を活かしてお客様の健康福祉を支えられることを楽しみにしています。」

インフォシスの社長である Mohit Joshi は次のように述べています。「近代的な ERP システムが実現する敏捷性は、業務プロセスの合理化や十分な情報に基づいた意思決定と合わせることで、現在のビジネス環境における組織の競争力を大幅に高めます。これを念頭に、弊社は革新的なハイブリッドアジャイル手法を用いて Orion の ERP および計画プラットフォームの全体的な変革を行うだけでなく、プロジェクトライフサイクルの「構築」および「実現」フェーズにも力を注ぎます。このプロジェクトは、並外れたオペレーショナル・エクセレンス、従業員体験、有形の事業価値を推進する弊社の Enterprise Application Services SAP ユニットの高い中核機能および技術力を反映したものです。」

Orion Corporation について

Orion はグローバルに事業を展開するフィンランドの製薬会社で、健康福祉を推進しています。ヒトおよび動物用の医薬品や医薬品有効成分の開発、製造および販売を行っているほか、新薬や治療法の開発を継続しています。医薬品研究開発の主な治療分野は神経障害や腫瘍学、呼吸器系疾患で、肺疾患向けの吸入式治療薬を開発しています。2020 年の純売上高は 10 億 7800 万ユーロ、同年末時点の従業員数は約 3,300 人です。Orion の A 株と B 株はナスダック・ヘルシンキ証券取引所に上場されています。

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、世界 50 か国以上でお客様のデジタル変革を実現しています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様のデジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NSE, BSE, NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースの記述は、当社の将来的な成長や財務予測、COVID-19 による従業員や顧客、利害関係者への影響の管理計画など、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項に規定される「将来予想に関する記述」が含まれています。これらの記述は、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素およびその拡散を抑制するための政府やその他の対策の効果、インドや米国その他諸国における経済の悪化や景気後退に関するリスク、政情や業況、経済情勢の変化、利益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、当社のコスト優位性に影響を与え得る要因を含む IT サービス分野における競争の激化、インドでの人件費高騰、高い技能を持つ専門的な人材を採用し維持する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野のテクノロジーに対する需要の低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、当社が戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切りまたは終了、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢、訴訟や政府による調査の結果などがありますが、これらに限定されません。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクの詳細については、2020 年会計年度（2021 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）を含め、米国証券取引委員会に提出された当社報告書に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社が随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先

マーケティング担当 安藤 mktg_jp@infosys.com